

第1回鳥取・岡山両県知事会議 議事録
(平成20年4月23日開催 / 於：智頭町)

(会議に先立ち、県立図書館学芸員より「池田勝入公」掛け軸について説明。)

【青木企画部長】

それではこれより鳥取・岡山両県知事会議を始めさせていただきたいと思います。冒頭にまず鳥取県知事の平井知事よりご挨拶申し上げます。

【平井知事】

本日は、石井知事そして岡山県の幹部の皆様にごこうして、おいでいただきまして誠にありがとうございました。私どもの念願がかないまして両県が初めてと申しますか、ほとんどおそらく知事になられてこうした経験がないかと思いますが、こうして膝を交えてお互いの課題を話し合う会議を持つことができまして、私ども本当に喜びにたえません。

ここに恒興の像がありまして、先ほど来、睨まれているような気がいたしましてですね、「お前ら子孫はちゃんとやっとなるか」とこういう声が聞こえてくるような気がいたしますが、もともとは光政と光仲が入れ替わってお国替えをしたということから岡山と鳥取とはご縁が深い関係にあります。そうした関係を今日、現在に甦らせて陰陽がそれぞれに連帯をして新しい地平を開くようになればと考えておりまして、今日もぜひ交通の問題ですとか観光や物産振興、産業の問題など自由に語りあう時間をいただければありがたいなと思っております。今ちょうどテレビのほうでも篤姫をやっておりますけども、篤姫に出てくる斉彬公がいらっしゃいます。島津斉彬公。それが篤姫を非常に気に入っているわけです。その篤姫を気に入った理由は自分の母親を見ているような気がすると、そんなようなストーリーというかお話ですけど、斉彬公の母君は清姫という方でございます、これは鳥取藩の6代池田治道の娘になります。それが島津斉興に嫁ぎまして、そして斉彬を生んだわけでありまして。その弟が斉利になりまして、これが備前岡山池田藩のご当主でいらっしゃいますので、ここでまた鳥取と岡山は実は篤姫の頃につながっていたという歴史がございます。そのように切っても切れない、街道筋もそうでありまして、お互いの関係があり、もともとは池田家から姫路、岡山と別れてきているわけでございます。しかし最近いろんな意味で、交通の問題であるとか、観光だとか物産だとかもっともっと潜在的に協力できることがあったんじゃないかなと我々常々思っております、今日は石井知事をお招きして私どものこの鳥取の玄関口である智頭を会場にして実りの多い話し合いができればと思っております。ちょうど3月の末にここの智頭のインターチェンジが通りました。志戸坂峠道路が開通しまして、姫路と鳥取を結ぶ、大原を通過、西粟倉を通過つなげる道路が少しずつこう出来てきています。この玄関口となりました智頭のインターチェンジを間近に控えたところで、非常に今国政は混沌としておりますが、それを打開してお互いの結びつきを強めていく、そういう共通理解を得られればありがたいかなとも思っております。いろいろ本日はお忙しい中いらっしゃっていただきましたこと、重ねて御礼を申し上げまして、歓迎の挨拶と代えさせてさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

【青木企画部長】

それでは続きまして岡山県石井知事のほうからご挨拶を頂戴できればと思います。

【石井知事】

高い席から失礼いたします。本日は鳥取県平井知事さんの格別のお取り計らいによりまして、このような鳥取県と岡山県の知事会談を鳥取県を代表されますこのすばらしい文化財でございます石谷家住宅で開催できますことは、本当に私も大変意義深いことであると、大変うれしく思っております。誠にありがとうございます。先ほど来、このようなすばらしい石谷家の趣のある住宅で、そしてこのすばらしいお庭を拝見させていただきまして、非常に歴史と伝統のある鳥取県、この智頭町ということに思いを寄せているわけでございます。お話にもいただきましたとおり、大変、この鳥取県さんと岡山県は古来いろんな交流が盛んに行われておりますし、また池田家とのご縁といったこともございまして、今まで以上に連携を深めていかなければいけないという思いを私も強くしたわけでございますが、全国知事会議の終わった後だったかと思えますけれども、平井知事さんのほうからこのような知事会議を開催したいといったご提案をいただきまして、私も即座にこれに同調させていただきまして大変これは意義深いことだと大いに賛同させていただくということをお話をさせていただいたところでございます。今お話がございましたとおり、私も開通直後である志戸坂峠を先ほど車を走らせまして、少し遠回りにはなるんですけれどもそちらのほうで車を走らせながらこちらにやってきました。西粟倉のほうで少し立ち寄って、道の駅でお話を聞きましたところ大変多くの農産物が、例えばたけのこであるとかですね、山菜とかたくさん野菜類が並んでおりましたけれど、みんなこれが鳥取県産でございます、鳥取県とも非常に交流が盛んにもなり、またこのような新しい道路も出来まして、ちょっと車を走らせれば鳥取県に行けるんだということで大変地元の方々が喜んでおられました、それだけもう今、農業面の、その物産面におきましても交流が盛んになってきていることを改めて痛感したところでございます。そういった意味におきましては、今日のテーマにございますが、より一層の道路整備の促進を図って行って、基盤整備においての連携の強化を果たしていくと、そのみならずそういったものを活用しながら観光とか物産を含めた産業の発展ということに両県知事の会談というものを大いに役立てていきたいと、このように考えているところでございます。そして交流を促進して、両県の発展、また両地域の発展に生かしていくことのみならず、現時点におきましてご覧のとおり地方分権をめぐるさまざまな課題がございます。道州制の議論が展開されるようになっておりますし、当面の喫緊の課題であります道路の暫定税率の問題などこういった問題もあるわけございまして、こういった我々地域を預かる者としての共通の地方の課題につきましても意見交換をし、連携をしながら国のほうに対しまして強く働きかけをしていくということも大変意義深いのではないかとこのように考えているところでございます。智頭町におきましてこのような会議を通じまして両県の絆がより一層深くなりますこと、そして両県の発展にぜひ大いに役立つ意義深い会談となりますことを心から祈念いたしまして、改めてこのようなすばらしい会議をセッティングしていただきました平井知事さんを始め、鳥取県の事務当局の皆さんに心から感謝を申し上げまして、私の挨拶に代えさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

【青木企画部長】

ありがとうございました。これより会議のほうに入りますけれども足のほうをどうかお崩しいただいて、リラックスした形で会議を進めさせていただければと思っております。また上着のほうもよろしければ自由におとりいただければ、今日は少し蒸し暑くもなっております。

【平井知事】

これは昨日売り出したばかりのサントリーの、鳥取県の大山の水ですね。

【石井知事】

新聞で見たことがあります。

【平井知事】

昨日初めて蔵出ししたものです。

【石井知事】

そうですか。

【青木企画部長】

それからですね、もう一点だけちょっとご紹介させていただきますと、あの前に花瓶が二つほど並んでおるんですが、備前焼のほうを石谷家住宅さんのほうで特別にご厚意を頂戴しまして陳列をさせていただきました。そしてこちらのほうには二十世紀梨の花、これは鳥取県の県の花でございますが、そちらのほうを組み合わせ活けていただいたようなことでございます。ちょっとご披露させていただきたいというふうに思います。

----- (議 題 協 議) -----

【青木企画部長】

それでは本題のほうに入らせたいと思います。お手元のほうに「知事会議」という資料を用意させていただいておりますので、そちらも少しご覧いただきながらと思います。今日の議題でございますけれども、3点ほど用意をさせていただいております。まず1番目でございます。両県を結ぶ道路の整備促進についてということでございます。それでは最初にまず、議論の出発点といたしまして両県の道路の今の整備状況につきまして鳥取県の道路企画課長より簡単にまずご説明を申し上げたいと思います。

【長本課長】

鳥取県と岡山県が接しております部分は約100キロメートルございます。このうち高速道路、そして国道、県道これらのものがつながっておりますのが、23箇所になります。100キロの中の23ということでございまして、5キロに1箇所つながっています。このうち現在自動車が通行できるものが17箇所ございます。ですから以前から広域的な交流、そして地域間の交流、これらのものが大変頻繁に行われてたというようなことがございます。そのうちで広域的な交流基盤といたしまして3つの道路がございます。まず中国横断自動車道姫路鳥取線。姫路鳥取線は中国縦貫自動車道の佐用ジャンクション、これから鳥取インターまでが62キロございます。先ほどのお話にございました西粟倉から智頭インターまで、これはこの3月に供用を開始いたしました。現在工事は新直轄で行われています。これには供用日時が公表されておまして、佐用インターから大原インターまで、これが21年を目標にしておまして、そして大原インターから西粟倉インター、これが

20年代の前半の予定となっております。次に智頭インターから河原インター、これは今年度、20年度供用ということになっております。そして河原インターから鳥取インター、これを21年度の供用としています。我々といたしましては公表されました供用年度、これに遅れることがないような形での進捗をお願いしたいと思います。次に中国横断道の岡山米子線でございます。山陽道の岡山ジャンクションから北房ジャンクション、この間は平成9年に開通しています。そのうちの岡山ジャンクションから賀陽インターまで、これは現在四車線化の工事が進められています。また中国縦貫道の落合ジャンクションから米子インターまで、この間が67キロでございます。これにつきましては平成4年に供用を開始しております。そして現在、落合ジャンクションから蒜山インターまではこの間の四車線化工事が進められています。我々といたしましては暫定二車線区間の早期四車線化の国への要望を強く行っております。次に地域高規格道でございます。北条湯原道は米子道の湯原インターチェンジから山陰道の北条インターチェンジ、これを結びます全長50キロの地域高規格道路でございます。現在国道313号が開通し、両県が主体となって整備しています。湯原インターから蒜山初和までの11キロ区間につきましては、岡山県のほうで禾津バイパス、湯本バイパス、熊居バイパスを整備していただいております。また県境におきましては犬狭峠道の9キロ区間、これも開通していただいております。そして鳥取県におきましては北条インターから倉吉インターまでの6キロが、一昨年開通いたしております。現在工事いたしておりますのは、倉吉道路の4キロ区間、その延伸区間を行っております。岡山県のほうの残る区間におきましては、今後調査区間として努力していきたいと思っておりますし、我々といたしましては現在施工しております倉吉道路、この整備促進を図りたいというふうに考えております。

【青木企画部長】

以上のような現状の話でございますけど、3月末で道路特定財源の暫定税率が切れたり、臨時交付金が切れたりということで、今後について大変予断を許さない状況になっているということでもあります。その中で、両県のほうで高速道路の整備やらそれから国への働きかけ、そういったことを含めていろんな取組みを連携して進めていけるのではないかと、そんな風に考えているところでございます。事務局のほうからは簡単ですが以上とさせていただきます。

【石井知事】

ありがとうございました。今ご説明いただいたとおりでございますけれど、まずは中国横断自動車道の整備でございますけれども、私も今日先ほどご挨拶申し上げましたとおり志戸坂峠のほうを通過してまいりましたけれども、順調に鳥取県のほうの整備が進んでおると思っております。私どものほうも今一生懸命粟倉のほうですね、大原に至るそちらのほうの事業の推進を国のほうにもお願いしているわけでございまして、今ご紹介いただきましたとおり、この大原から南のほうは平成21年の供用予定でございますが、この北側のほう、大原から西粟倉にいたる所、今工事をやっているところを見てまいりましたけれども、この供用予定が20年代の前半というふうに位置づけられておりまして、用地買収等々のそういう問題もありまして今日のような状態になっているわけでございますが、なお一層関係者の理解をいただき、円滑に推進していきますように奮闘いたしまして、また要請等に力を注いでまいります。それから先ほどから四車線化の話が出ました米子道でございま

すけれども、ご指摘のとおり今、四車線化の工事が順調に行われておりまして、まずはその四車線化の工事の一日でも早い完成を目指して働きかけして参りたいというふうに考えております。なお、ご指摘がございましたとおり、残るところの四車線化についての事業化は要請はしておりますものの、国のほうからの了承を頂いておりませんから、やはり全線、最終的にはやっぱり四車線ができますように私どもも願いをもって、これは鳥取県さんと連携しながら国等に対して要望、訴えかけをしてまいりたいと思っております。それから最後に北条湯原につかまして今ご指摘いただきました一部の区間、真庭市のこの約11キロメートルの区間につかましては313号のバイパス事業として整備を完了しているわけですが、一部のこの7キロメートルの蒜山のほうの区間につかましては調査区間の指定ということ国をのほうに対して提案をしていきたいということで、20年度の重点提案ということで国のほうに昨年度の提案ということをお願いしたところですが、ご承知のように今、道路特定財源をめぐるさまざまな議論がございましてこれが見送りされておりますので、なお一層強い要請ということで、国に対して強く働きかけをして調査区間の指定を実現できますように努力していきたいと思っております。いずれにいたしましても大変、この高速道路のこういったネットワークは両県のこれからの地域の交流や経済活動の発展とか、あるいはその地域の振興というようなことでいろんな面で大きな効果がございまして、そういった意味におきまして私どもも重点的な事業ということでなお一層両県で連携しながら国等に働きかけをしたり、また私どもの事業につかましてはしっかり進めていきたいと考えております。

【平井知事】

ありがとうございます。本当に、石井知事から率直なお話をいただきまして大変にありがたいなあと思っております。やっぱり3本の高速道路がしっかり核として通っていくことが必要だと思っております。これから道州制ですとかあるいは地方分権の議論なんかだんだんと本格化してくると思うんですが、まずはそのためにも地域の連帯が深まっていなければならないと思っております。鳥取自動車道姫路鳥取線につかましては私どもも智頭インターチェンジの北側のところですね、もう2年ぐらいでできそうということになっています。私どもはここで鳥取・因幡の祭典を2009年にはやろうと、来年度にはやろうということで実は開通を心待ちにしておりまして、そのために実はイベントまで組んでいます。岡山でも都市緑化フェアが今年ございますね。ああいうのにも我々からも出かけて行けますし。それから北条湯原道でございますが、最近この真庭の地域とこの倉吉が連帯いたしまして、ここがですね今、経済的に交流を進めようとしております。倉吉は前はここだったんですが、関金町と合併しまして。ですから倉吉の商工会議所と真庭の商工会とが今、共同でいろんな事業をやりたいというふうになっています。非常に県内でもこの岡山側と鳥取側との間の仲のいい地域であります。それからこの米子自動車道ですが、こちらも蒜山まで四車線化が進んできています。これがすかっと通りますと、瀬戸内海を含めて日本海側までつながる道路が四車線化で完成すると。ですからこの線3本をぜひ計画通り通していただいたらと。また岡山県の石井知事にもご尽力いただきましてぜひお願いしたいなど。それにつけてもお金の話なんですけど、やっぱり今暫定税率の問題がございまして、ですから岡山県と鳥取県の間を結ぶ大動脈を必ず作らなければならないという共通理解を今日この場で持てればいいなというのが一つございまして、あと知事のほうから先ほどお話がござ

いましたが地方の財源の問題もございます。一つ心配しておりますのが今新聞報道だと4月の30日に暫定税率を復活させるように再可決をしようとする党側がプランを組み始めたとの報道がございますが、そのあと今度は臨時交付金を含めた道路財源をどうするのかという二つ目の法案がまだ見通しが立たないかと思っております。臨時交付金は我々の県でも100億ぐらいございまして、たぶん岡山県さんも200億とかそういうオーダー。

【石井知事】

195ですね。

【平井知事】

そういうオーダーだろうと思います。ですから普通の道路特定財源も多いぐらいじゃないかと思うんですが。ですからそこらもこれから国に対して訴えかけをしていく必要があるのではないかと思いますし、もちろん道路特定財源自体も私どもがしっかりと国のほうで、財源を地方の分はびた一文も減らさないというのは言い過ぎかもしれませんが、手をつけない、これについてはちゃんと補償するという、そういうことを共同で訴えかけていく必要があるんじゃないかと思えます。

【石井知事】

知事のおっしゃるとおりでそういう共同で訴えていくことについては賛成いたします。今195億と申し上げたのは、道路暫定税率の廃止とその臨時交付金を併せて195億というようなことございまして、これがなくなりますと私どもは一般財源と本則税率だけで、いわゆる道路整備は過去の公債費でやっていますから、借金返しだけで消えてしまうということですから本当に新しいものが何も出来なくなってしまうというような事態でありまして本当に今のような、平井知事さんがおっしゃるように国会の状況を注視していかなければと思います。暫定税率の問題、それから交付金の問題併せてしっかりと地方の財源について確保していただかないと、やはり我々の予算も国のほうの予算に合わせて組んでおりますので、今の時期にこれを振り替えるとなると大混乱しますし、こういう特定財源か一般財源かという大きな議論を国のほうにおいてしていただきまして、方向性を出していただくのはそれといたしましてもですね、これはやっぱり年度年度で予算審議、単年度でこれをやっておりますからタイミングを合わせながら国のほうにおかれましてはご検討いただきたいと思っておりますので、ぜひ我々がこういった事態に立ち入って整理していく必要性というのが極めて高いということを強く国等に対してアピールするということは大いに賛成させていただきたいと思えます。

【平井知事】

臨時交付金なども結構生活道路が絡んでますしね、市町村もずいぶん使っています。

【石井知事】

市町村にも大変影響していると。

【平井知事】

市町村も大きいと思えますね。私どもは例えばこの鳥取自動車道などは直轄道路なものですから新直轄でやっていますんで。ですから交付金はそれ相当で確保しておりまして直轄事業ができるようにしていただかなければならないと思っております。2兆6千億まるまるなくなるとたぶん何もできなくなるんじゃないかと。

【石井知事】

できないですね。もう何もできなくなるし、国から補助金とか交付金も無いし本当に何もできなくなってしまう。過去にやった事業の公債費の返済ということだけが残りますんで、そうするとそれを一般財源でやっていかなければならなくなると、それを道路、あるいは河川という公共事業だけでなく、福祉、教育までこのまま1年間放っておいたら影響が及びかねないですね。本当に厳しいですね。

【平井知事】

私どもですら借金返しだけで200億ぐらい毎年使いますのでね、それは今一般財源で持ち出してるぐらいです。特定財源も充てられない状況でございますので。

【石井知事】

ぜひ早期に国のほうで結論を出していただきたいということと、それから既に一ヶ月近く穴が開いているわけですから、地方財政に穴を開けたものは国のほうの責任においてしっかりこれを補填してくださいということはしっかりと主張をしてですね。

【平井知事】

そうですね。これはなんか本日アピールの的にやろうということ。

【青木企画部長】

本日ぜひその共同アピールを取りまとめさせていただければということで、お手元に案文をたたき台としてご用意いたしましたので、ご確認をいただければと。

【平井知事】

はい、私はこれで。

【石井知事】

はい、私のアピールしたいことはこの中に盛り込まれておりますので、これでアピールをさせていただきますと思います。

【青木企画部長】

ではこのご用意いたしましたものを本日の共同アピールとして取りまとめさせていただいたとでございますので、後ほど記者のみなさんにはお配りをいたします。会見のときにまたご説明もさせていただければと思いますのでよろしくお願いします。それでは2番目の議題のほうに進めてまいりたいと思います。2番目が観光連携についてでございます。観光につきましては、旅行の形態なども以前から比べますと団体旅行から個人旅行に変わってきてまして、いわゆる団塊の世代の方が多く旅行に行かれるようになったりということだいが形が変わってきてございます。また、外国の、中でもアジアのお客様がですね、数多くお見えになるようになった、こうした新しい動きも出てきているわけでございます。こういった中で旅行ニーズというものも従前から比べますと、とにかく行くだけということではなくて行ったからにはいろんなところを楽しみたい、ということで県境を気にせずお客様が動かれるようなそんなことが一般的になってまいりました。そうやってまいりますとやはり県境というものにとらわれずにお客様の視点に立ってもう少し連携を、まあこれまでも実は多く連携を進めているものはあるわけなんでございますけれども、いま少し連携を強めてみてはどうかということでございます。それで例えばということで今日写真などもちょっと載せておりますけれども、岡山と鳥取では例えばこの歴史的な町並みということで見ましても、倉敷、それから吹屋、これはベンガラの町として大変有名で

すけれども、それから勝山の町並みというようなものがございまして、そして私どものほうには今日おいでいただきました智頭でございまして、鹿野町の鹿野往來ですとかあるいは倉吉の土蔵群、こういったものがございまして。こういった非常にいわば旅慣れた方に好まれるようなそういった素材を生かしているようなコースを設定するっていう工夫もできるんじゃないか、さらにはその下のほうに書いておりますけれども両県とも大変良い温泉に恵まれていると、こういう共通点もございまして。岡山では美作三湯というのが大変有名でありますけれども、湯原、奥津、湯郷とこういった非常にすばらしい温泉もございまして。また私どものほうには非常に地理的にも近いということで申しますと三朝温泉というものもございまして、このあたりをうまく組み合わせまして、最近では外国のアジアのお客さんのほうも温泉にどんどん来られるようなそんな時代にもなっております。また最近ちょっとブームなのが鉄道遺産、実は鉄道のブームが再来しているということがよく言われてございまして。鳥取ですと若桜鉄道という3セク鉄道があるんでございまして、その一番奥の若桜駅に転車台と申しまして昔蒸気機関車の方向を替えるような、そういったターンテーブルのようなものがございまして。岡山のほうにも津山駅に同じようなものがありますので、この辺の鉄道遺産を組み合わせたいようなツアーというのがマニアだけでなくかなり一般的な旅行としても好評を博しておりますので、このあたりも組み合わせたいやってみれば新しい需要を開拓するというのもできるんじゃないか、特に中部、関東といった遠隔地からお越しになるお客様から申しますとせっかく来られたからには山陽、山陰のよさを味わいつくして帰りたい、こんなことがあるのではないかとというふうに思っております。また先ほど申し上げましたように、東アジアを中心に外国のお客様が大変多く来ていただいております。例えば私どもで申しますと米子空港から仁川のほうに便が飛んでおりますけれども岡山のほうにはそれ以外の国々にも多く定期路線をお持ちでございまして、その辺も上手にうまく組み合わせながら広域的なルート、それから今申し上げたような温泉とかそれからゴルフ、我々もうらやましいんですけど岡山は冬でもゴルフが出来るという大変長所をもっておられますので、そのあたりも上手に組み合わせながら、例えば岡山でゴルフをしていただいて、こういった疲れた後で私どものほうで、例えば雪景色をご覧頂くとかそんなこともできるんじゃないかと感じてございまして。先ほどご披露いただきましたような高速道路が今後整備が進んでくるということになってまいりますとますます今後そういった広域的な連携というのができるんじゃないか、またJRさんとの連携ということを考えてみましても、例えば鳥取だけで閉じていると、あるいは岡山だけで閉じているということではなく、新幹線を使いながら、伯備線、津山線、それから智頭急行、こういったものを駆使しながらこれからの時代にあったような旅行商品作りということが両県連携すればもっと広げられるんじゃないか、こんな問題意識で議題として設定をさせていただいたところでございまして。

【平井知事】

先ほども知事のほうからお話があったように、こちらにそれぞれ3本の柱がございすけれども、現実問題として先ほど申しましたように、倉吉とか真庭のあたりの中部のほうは一体性もあると思います。例えば三朝温泉だとか関金温泉だとか岡山の美作三湯であるとかですね、それに連なって大原のあたりから智頭のあたりまで、ここには智頭急行があります。それから蒜山、大山のあたり、こちらもお客さんが周られるっていうことで、だいた

い蒜山のほうでお昼ご飯を食べて結構岡山のほうにもしっかりをお金を落とされて周ってくるとそういったような仕組みになっていますから。

【石井知事】

もっと行くと花回廊に。

【平井知事】

鳥取花回廊もここにあります。それにこのベンガラのあたりから近いところに、最近鳥取では金持^{かもち}神社とってですね、金持ちの神社って書くんですが、宝くじにあたるそうですが、責任は持てませんけど。ともかくこういうコースが成り立つようになると思いますね。例えば、ここにはスカイラインですとか、香取が新しい放牧場ができましたんでそこもコースで周れますしね、ですからこのあたりのゾーンニング、智頭急行沿線から県北の真庭だとかこのあたりだとか、それぞれにゾーンニングができると思います。広域観光であればもちろん岡山の県北のみなさんと力を合わせてできるんじゃないかと思います。それからあと国際的に旅客を取り込むことが大切だと思ひまして、今度知事のご尽力で香港から定期便がいよいよ。

【石井知事】

ええ、今週土曜日に始まるんです。

【平井知事】

ええ、私もここ（米子空港）にアジアナが来てるんですけども、こういう国際的な旅客が広域に動く、国際観光旅客対象の観光ルート。それから鳥取県にはJALが入っていないんです。米子にも入っていません、全日空が二つとも。

【石井知事】

どっちも全日空？

【平井知事】

島根の出雲空港に入っていますが。

【石井知事】

そうなんですか。

【平井知事】

ですからJALのお客様というのがあんまり鳥取には来ないんですけども、今岡山空港に入って周るような、ですから岡山と鳥取の両方を楽しむようなですね、新幹線なんかでも入ってきて岡山を見たり鳥取を見たりして帰るとそういう観光も出始めていまして、色々テーマを考えれば、両県一緒にできることは多いと思います。

【石井知事】

アジアナさんの時間帯はこちらに来やすい時間帯なんですか？

【平井知事】

そうなんです。これがですね、岡山空港は日本から行きやすい、こちらは韓国から来やすいんですよ。お昼過ぎに着くんで、向こうの人はそこから午後ゴルフができますしね、いま大山のあたりのゴルフ場でやれるんですけど、そうでなければ岡山のほうに入って、今でも実はやっています。

【石井知事】

来られたときに？

【平井知事】

はい。ですから、韓国のお客様を迎えるにはアジアナというのが非常に便利な。そちらだと夜に？

【石井知事】

そうなんです。夜着いちゃうんですよ。こちらからは行きやすいんですが。

【平井知事】

で、あの中国路線だとか、香港路線だとかあるでしょうし。

【石井知事】

県境の観光マップがありますよね、こういうようなのがたくさん。ですから連携して観光商品を作り上げればもっと多くのお客様を呼び寄せることができると。もともと両県の人たちが行き来できますからね。

【平井知事】

それは馬鹿にならないですよ。

【石井知事】

確かに。ちょっと休みに行ってみようというときには近くまでということになるんですよ。

【平井知事】

そうですね。

【石井知事】

やはり隣の県で一番交流しやすい、行きやすいということですから、今のようない金持ちになる神社なんか知りませんでしたしね、どんどんPRしていただくと。

【平井知事】

この金持神社のある町が、県内で財政が一番悪いんです。お賽銭を町に寄付してもらおうと、本当に寄付してもらっているんですよ。

【石井知事】

温泉も本当に三朝温泉ね。ここもたくさんの方が泊まったことがありますという有名な温泉ですから。連携していければ観光商品に活かれますし、冒頭にお話のありました歴史的な町並み、歴史文化、これから絶対これはグループ旅行、ファミリー旅行にうってつけですよ。

【平井知事】

勝山とかベンガラとかですね。本当にきれいな、歩いているだけで楽しい町で。

【石井知事】

これは外国人の方にも大変好評なんで、インバウンドでやるにも歴史的なつながりというのはお互い連携しましてですね、一つの県だけじゃなくて両県またがって見てもらうというのが。

【平井知事】

勝山からここ倉吉はわりと近いですよ。

【石井知事】

そうですね。

【平井知事】

そこをまわって湯原温泉だとかですね。

【石井知事】

そうですね。非常に近いですね。

【平井知事】

両県でそれでしたら協同してね。

【石井知事】

観光部局と連携させていただくということで、ルートを作って売り出していくと。

【平井知事】

やっぱり外国からのお客様を呼び込めば一番だと思います。今、中国だとか香港だとか。

【石井知事】

ええ、今アジアの富裕層の方々がものすごく増えておりますので、ご指摘いただきましたとおり岡山からの韓国とそれから上海、大連、北京線そして今度の香港ということですからそういった方々にぜひ岡山に来てほしいと言っていますけれど、これはまた鳥取県と連携して両県をめぐっていけば韓国からもまた到着地、出発地を替えることができますから、連絡できると思います。

【平井知事】

私どものアジアナ便も是非、岡山のほうに特に観光インバウンドのほうで活用していただきたらと思います。

【石井知事】

ええ、1時間強でこちらに着きますから、今までよりも来ていただくことが可能ですから。

【平井知事】

県境までで1時間ぐらいで行けるんでしょう？

【石井知事】

私どもも今度は観光戦略を作って観光立県宣言をしようと思っているんですよ。ちょうどそういう面において鳥取県さんとの連携をその戦略の中に謳いこんで進めていきたいと思っておりますので、大変いいご提案をいただきました。それから最後にご指摘いただいた、扇形の機関庫がございましてですね、津山に。こちらのほうにも古い列車があった気がいたしますけれども、鉄道ファンの方にはああいう古い昔の機関車へのノスタルジアがありましてですね、大変人気があってそれで津山でこのあいだ、観光キャンペーンを1年前にやって大変人気があってですね、で鉄道の人気があったもんで一つスローライフ列車といってまさに因美線をですね、スローライフで走らせたんですよ。一つの駅に止まってそこでイベントを少し楽しんでいただいて、スローですから次の駅に着いたらまた降りていただいてですね、そういうスローな旅というのも人気がありまして、因美線はこちらとも結構つながってあってですね、石谷家さんも因美線に私財を投入していただいたぐらいに大変鉄道に思い入れがあると。

【平井知事】

そうでうね、因美線ももっと活用できますよね。

【石井知事】

できます、これからの時代絶対良いと思いますよ。急いで行く旅もいいけど、ゆっくり行

く旅も味わいがあっていいですよ。

【平井知事】

まあ智頭線もですね、是非使っていただこうかと思うんですけど、大原のあたり宮本武蔵、それから美作の温泉のほうにも足が伸ばせますし。

【石井知事】

まずは連携して国内では大きなターゲットの関西圏を引っ張り込んでくるような、一つの県でやるのもいいけれど連携すると魅力が倍増しますよね。

【平井知事】

智頭急行も実は両県出資して作った会社でして、ここもせっかく京都まで汽車が走りますんでそこに岡山県さんのパンフレットなども一緒に入れてですね、沿線をこうやって旅して歩きませんかと提案を関西の人に直接ご紹介できる材料だと思いますね。

【石井知事】

観光ルートなどぜひこれから開発して研究してですね両県連携した商品化をするように観光関係業界のほうにお願いしていきたいですね。

【平井知事】

具体的に旅行商品として造成するのが良いと思いますしね、我々も実は県庁の中に観光業者出身の者を置くようにしたんです。エージェント、日本旅行とかですね。

【石井知事】

中におられるんですか？

【平井知事】

ええ、再就職した。

【石井知事】

ああ、そういうこと。

【平井知事】

それで商品造成したり岡山のみなさまとも打ち合わせさせていただければと思います。

【青木部長】

そういったような事務レベルのほうでぜひ、体制を作らせていただいて研究を進めさせていきたいと思います。

【石井知事】

外国人誘致のほうにもそれは？

【青木企画部長】

はい。

【平井知事】

香港便だとか流行をそういう中に盛り込んでいただいてですね。

【青木企画部長】

はい。では早速会議が終わりましたら動かさせていただきたいと思います。それでは大変駆け足で恐縮です、三番目の議題、物産連携でございます。今日もお手元にいろいろな資料がございますけれども、それぞれの食でございますとか、民芸を中心としました物産のパンフレットもお配りしているところがございます。それでこれまで、例えば関東地区、関西圏などでいろんな物産展を各県やっているわけがございますけれども、パターンとし

ましてやはり単独の県でやるといったパターンが多くございます。合同といってもここで書いてございますようにかなり大括りなやり方でやったものが多かったということなんですけれども、近年大変採算というものを物産展も気にされるということもござまして私ども鳥取県なども、東京でやっておりました三越とかがなかなか単独では難しくなったりと、そういった課題に直面をしてきているところであります。これは国内外問わず、なかなか単独でやるのが難しいなというケースが出てきているわけなんです。そこでこの辺で連携の可能性はないだろうかということで、いろいろ事務方のほうでも考えてみましたところ、右のほうで主な特産品というのを少し写真交じりでご紹介しているわけなんですけど、これをざっとお眺めいただきますと、一つの特徴といたしましてですね、例えばそのフルーツでありますとかあるいは新鮮な魚介類というような非常に消費者にこう訴えかけるようなテーマは共通しているわけなんですけども、それぞれが主力商品として売り込んでいる物品というのがですね、実はあまりかぶっていない、重なっていないというのがございます。これは最近いろいろ各県で組み合わせるおやりになる例があるわけなんですけれども、そういう意味ではある種、非常に理想的な取り合わせではないだろうか、瀬戸内海の海の幸、温暖な気候というものを生かした農産物あるいは水産物というのに対しまして私どもは日本海側の海の幸、それから例えば砂丘でございますとかそういった地域の特性を生かしたような農産物、それぞれ特徴がありますので、これを上手に組み合わせれば、さらに消費者の選択の幅を広げてスケールアップしたような物産展、それからファンの獲得、こういったことが出来るのではないだろうか、こんなことを事務方では少し相談を始めたところでありまして、ぜひ今日の知事会議を機会に何か新しいことが踏み出せば良いかと、こんな気持ちを持っているところでございます。

【平井知事】

確かに重なっているようであまり重なっていないと思いますね。やはり山陽と山陰の差がございまして、一緒になって取り組むとなお広がりが出てくると思います。例えば岡山はジャージーなんですけど、鳥取はホルスタインなんです。この大山のあたりにいるんですけどもこれはもうホルスタイン種でありまして。まあいろいろと同じようできて特に海のものとは違いますし、果物なんか桃やマスカットはあまり鳥取のほうにはありませんで、梨だとかスイカだとかでありますから、主力がですね。いろいろと海外にも石井知事の発案で最近、展開されていますけれども、本当に注目しているんですけども、ああいうところに例えば私どもも一緒になって参加させていただいたりとか。

【石井知事】

そうですね。二十世紀梨などは中国へやっておられるんでしょう？

【平井知事】

ええ、今は台湾とか香港、北京、上海でもやっております、主力は台湾ですね。

【石井知事】

私どもは今始まったばかりなんで。スイカも大変、今有名でしょう？

【平井知事】

スイカは最近では東京でも出るようになりました。関西圏だけでなくですね。

【石井知事】

先ほど平井知事さんがおっしゃったように違いますよね、こうやって見ると。特徴があっ

てね。それが連携して物産展なんかが仮にできれば魅力が倍増するということになるでしょう。季節的にも良いでしょうね、いろいろな時期にいろいろなものが出ているでしょうから。やっぱり果物は夏ですよ。

【平井知事】

我々は若干遅めかもしれませんが。まあ今年の予算ですぐには出来なくても来年度とかですね。

【石井知事】

これ来年度からだったら、まあちょっと今年もうセットして準備に入っていますから次の年度に向けてお互い連携して実現できるようにやるということであれば可能だと思います。

【平井知事】

例えば関西方面とかいう振り分けは？

【石井知事】

国内だったら市場の大きい、関西が一番まあ。

【平井知事】

私ども関西が一番。

【石井知事】

一番行きやすいですね。関西も我々は年間、何回かやっていますからそれを一度、鳥取県さんもおやりになるでしょうから、それを調整すれば合同で可能ではないかと思えますね。

【平井知事】

そうすると時期的に企画立案の段階から一緒にやれば。

【石井知事】

そのほうが経費的にも効率的ですね。

【平井知事】

宣伝にかけるお金も大きくなりますからその意味で集客効果も出ると思います。

【石井知事】

まずは関西の都市をターゲットにこれをやってみましょうかね。

【青木企画部長】

名古屋が、例えば私ども名古屋事務所を開設をさせていただいて、もう2年ちょっとになりますでしょうか。

【平井知事】

名古屋は今だんだん各県閉めているんですけども、鳥取は逆に開きまして。名古屋とか九州とかは岡山はどうですか？

【杉政策審議監】

物産展は九州でやりました。

【平井知事】

まあ関西が一番いいんでしょうね。集客力もわれわれの考えのほうも。

【石井知事】

それになじんでらっしゃいますから、物産に対して。よく知ってらっしゃるでしょうし、お買い上げいただくにもやっぱり関西のほうが一番PRにも。

【平井知事】

じゃあ関西圏だとか、あと海外なんかは？

【石井知事】

海外いいですね。私どもの海外は今路線が来ているところで進めておりますので。

【平井知事】

じゃあ大連だとか。

【石井知事】

大連と北京それから上海、そちらのほうがありますので。上海でやっておられるのですか？

【平井知事】

上海は私どもは今年の予定はあります。

【石井知事】

ありますか。

【平井知事】

境港が中心、西のほうか。

【石井知事】

西のエリアのほうか上海から。

【平井知事】

ええ、わりと。魚が中心だと思います。でも中国だと入れるものに限りがありますよね。私ども梨は入れられるんですけどほかの果物はあまり入れられない。マスカットなどは難しいですか？

【石井知事】

ええ、駄目です。制約がありますから。

【平井知事】

ですからやっぱり海が多いんです。海のほうがまだ入れやすいですね。加工品は大丈夫なんですけどね。タイとか韓国とかは？

【石井知事】

あれはもう果物だけ。果物の中でも白桃、マスカット、ピオーネの三つだけです。基本的に。数出る富裕層狙い。高いやつを、運賃とってさらに二倍、三倍になるんですけどそれでも飛ぶように売れますので。ですから鳥取の場合ですと。

【平井知事】

二十世紀梨でしょうね、二十世紀梨とかスイカ。

【石井知事】

スイカなんかは甘いおいしいスイカがございますでしょうから。

【平井知事】

そういう意味で果物もあまりかぶりませんのでね、競合にはなりませんから。そういう意味で来年度以降かもしれませんけれど。

【石井知事】

ええ、だから私どもそういう制約があるので、今おっしゃった台湾でありそれから香港、タイとなっていて、上海、北京は出せないです。

【平井知事】

難しいですか？

【石井知事】

まだ。許可が出ないと。これで規制緩和になればと働きかけはしているんですけどね。OKが出てなくて。鳥取県さんがずいぶん前からやってらっしゃった梨だとかりんごなんかはOKなんですけど。

【平井知事】

我々もりんごと梨はいいんです。ただ梨も実は台湾の業者が中国に出て行って、その系統で流れているんです。

【石井知事】

そうすると果物になると難しいという感じですかね。

【平井知事】

まあ東南アジアだとか。

【石井知事】

そうしたほうがやっぱり可能だと思いますね。

【平井知事】

ここで例えばターゲットを合わせてですね、物産協会とかですか？これは。

【青木企画部長】

そうですね。私どもですと県の物産協会というところがございます。岡山県さんのほうにも同じような民間の方がお入りになった協会が。

【石井知事】

産業貿易振興協会。

【平井知事】

あと我々、JAさんとかですね。

【石井知事】

これでとりあえずいっぺん関係者の会合を開いて打ち合わせをします。

【青木企画部長】

そうですね。民間の方々もいろんなやり方とかがありますので、おそらく調整をしっかりとっていったほうが良いと思います。まずは県とそれから今言われた両協会で今日ご披露いただいたようなことを前向きに進めるようなことをぜひやってはいかがでしょうか。

【平井知事】

だから大阪、関西圏とか海外とかの売り上げのために。

【青木企画部長】

はい。

【平井知事】

まあちょっと話は若干飛びますけれど、道路が出来てきますので経済界同士の結びつきをもっと強められたら良いんじゃないかと。商談会とか。私どもなら部品産業なんかあるんですね、例えばこちらだったら自動車産業だとかいろいろ岡山のほうと協力して、山陽と山陰とで一緒になってですね。

【石井知事】

どういう部品メーカーですか。

【平井知事】

たとえば先般も電気電子、というのがここに三洋電機がございまして、これが今非常に困難もあってですね、このたびコンシューマーズエレクトロニクスに名前を変えまして、またここにエプソンがあって、それからシャープ系があったり、まあこのへんが核になってもともとはパナソニックがあったりしたんですが、そこらの関係で電子部品関係が多いですし、あと最近はどうしても自動車部品関連の仕事をとってきたりとこうした山陽側ですね、三菱さんとかあるいはマツダですね、商談会とかをしてお互いに生産交流ができないかというのがあります。今度、鳥取自動車道が出来るといことで津山と取引を始めた鉄鋼屋さんがいますし、やはり需要があるようでお互い補いながらですね。

【石井知事】

それはお互いに得意な技術を持つ異業種で交流すると取引が広がっていきますからお互いにメリットがあるんじゃないかと思いますね。商談会をやってお互いに異業種ということで交流ができると思いますね。

【平井知事】

何しろ近いですから岡山県さんのバックボーンのような形で鳥取県が機能するという形かと思えますね。あとはこちらに境港を持ってまして、これは日本海側には近いんで、私も環日本海の航路を開こうとしているんですけど、韓国の東海岸だとかロシアのウラジオストックに定期航路が出せないかとやっております、結構日本海は瀬戸内海と違って波が高くてですね、いろいろ行ったり来たりしてるんですけども早ければ今年度末までに就航したいという事業者が韓国側にありまして、そういうのを活用していただいたりあるいはもちろん今度は逆に瀬戸内海のほうから出て行く航路もございまして、今度は知事のご配慮で岡山のほうで日中韓の。

【石井知事】

日中韓の国際物流セミナーですね。

【平井知事】

私も鳥取県も参加させていただいて、そういうやはりアジアの中でアジアに近い中国地方ですからアジアに近いことを生かして結びついてですね、それで対外的な貿易なりでやっていくことができれば本当の意味の地方分権的な地域作りになっていくんじゃないかと。

【石井知事】

物流の関係から行くとやはり日本海側の玄関口がですね、港の拠点がありますので、そここの高速道がつながっている利点を有効に発揮できればやっぱりモノの拠点、私も交通の結節点にちょうどなっておりますけれども、こういうルートを使って海との関係で、アジアの玄関口ということで大変有効なことだと思います。

【平井知事】

岡山はちょうど四国との結節点でもありますし。

【石井知事】

ということで少しでもアジアに近いアジアの玄関口として私どもも注目しております、

どんどん発展されるんじゃないかと思っております。

【平井知事】

中国航路だとこちらの瀬戸内海からもまず距離はあまり変わらないんですけど。

【石井知事】

韓国、ウラジオストック、ロシアのほうですか、こちらはもう圧倒的に便利ですから。

【平井知事】

だいたい夕方に出て朝に着くような航路でございますので。そうとう近いことは近いですよ。

【石井知事】

そういうことでしたら我々もPRさせていただきますんで。

【平井知事】

知事が推進されておられます日中韓の貿易もですね一緒に出来ることがいろいろあると思いますので。

【石井知事】

日中韓の三大臣の会合で物流ということになると、これはもう高知県さんなんかにもご参加いただくような話で。

【平井知事】

ではまさに四国から山陰まで。

【石井知事】

つながっていくと。まあ太平洋からも行けますからね、大きい船で行こうと思ったらやっぱり太平洋側になりますからね。瀬戸内海には大きい船は入りませんので、制限がありませんから航路の。

【平井知事】

下関のほうの？

【石井知事】

深さです。狭いところが結構ありますし。そういった意味では日本海側はそういった制約はないから、これからどんどん伸びていくんじゃないかと思えますね。アジアの発展とともにね。ぜひそれはそういった商談会等ですね、産業界にもお話をしていきたいと思えますので。

【平井知事】

よろしく願いいたします。

----- (記 者 会 見) -----

【青木企画部長】

それでは以上で予定した議題は終了いたしました。それではこれより記者会見のほうに入らせていただきたいと思います。

【平井知事】

じゃあ今回開催県ということで私のほうからご紹介させていただきたいと思えます。本日ここに石井岡山県知事との懇談をさせていただきまして共通認識に至りました提案、観光だとかあるいは物産振興などもございましたが、一つ改めて共同アピールを採択させていた

いただきました。鳥取・岡山両県を結ぶ高速道路ネットワーク等の整備に向けた共同アピール案でございます。今までも鳥取・岡山両県、古い歴史がございまして因幡街道、出雲街道などと接点がございました。そしてモノや人が行き来してきたわけでありますが、今日ここに来て急速に高速道路ネットワークの整備など暗雲が立ち込めてきた状況だと思っています。ただ我々は同じ中国山地を囲んだ地域で連帯はしているわけでありまして、産業振興だとか、観光振興などに必須の物流、交通の基盤が必要であるという認識にいたっております。しかし3月末を持ちまして道路特定財源の暫定税率が期限切れとなってしまいました。また地方道路整備臨時交付金制度も今、期限切れになっているわけでありまして、私どもはこれからの整備について非常な懸念を持っているということでございます。先ほど石井知事のほうからもお話しがございましたが、政府与野党はこうした状況を早急に打開するために国としてきちんと結論を出してもらいたいと、こういう強いお言葉がございましたが、私ども鳥取も同じ認識でございます。ちょうどこの後ろにも地図がございすけれども、3つの道路がございまして一つは姫路鳥取自動車道、また北条湯原道路、それから米子自動車道、それぞれに四車線化だとか開通をさせるための工事の進捗が待たれるわけでございます。いわば三本の矢があるわけでありまして、この三本の矢が束ねられて初めて陰陽の連携が密になっていくのではないかと思うわけでありまして、これら3路線につきまして国家戦略として最優先でこれを早期に完成するよう国として実施をしていただきたい。そして我々、両県でもそのための努力を誠実にやっつけよう、こういう合意をいたしました。ぜひ早期完成に向けた国のほうの努力、これを求めていきたいと思っております。それから第2点目といたしまして地方道路整備臨時交付金が風前の灯の状態にあります。現実には今期限切れを迎えて、国のほうから既に内示が凍結された状態になっています。石井知事のほうでも200億円近いお金がこの交付金と道路特財とで発生をしているというお話がございました。私どもも100億の事業費が交付金の関係で凍結をされております。大変由々しき事態でございまして、これは生活道路にも影響をするわけでございます。渋滞解消だとか安全の確保などにも不可欠のものでございまして、最近の議論でこの交付金の問題があまり議論されておりませんが、このことをあえて強調をさせていただき、共同アピールとさせていただきます。それから第三点目といたしまして暫定税率の期限切れによる影響、これは自治体の財政にも影響があるということでございます。岡山県の場合でもこのままだとそのほかの道路以外の事業にも影響しかねないという石井知事のご懸念もございました。国において財源補填を確実に、歳入欠陥にならないように講じていただきますとともに、この暫定税率等の問題について今選挙も控えて、大変議論が戦わされている状況にありますが、与野党できちんと結論を出していただきたい。早急な結論を得るように私どもとしては望みたいと思っております。先ほどのお話の中で2兆6千億の財源を失ったらたぶん全く立ち行かなくなるだろうと、これが両県の共通の認識でございましてそういうことを踏まえて地方の声を踏まえた国の解決を我々としては両県連名で求めたいと思っております。以上緊急の共同アピールとさせていただきます。

【青木企画部長】

それではこれよりご質問に入りたいと思っておりますが手を挙げていただいて、社名とお名前をお願いいたします。それからどちらの知事に質問されるか、両方の知事に質問されるかのあたりもお願いいたします。

【朝日新聞】

両知事に対して質問ですが、今日一番の収穫は何でしたか？

【平井知事】

私は陰陽の連帯を深めるきっかけが今日出来たのではないかと、それに一番の収穫を感じております。特に道路整備について両県をまたがる三本の矢のような道路がございますがこれについて石井知事のほうから深い理解を示していただきまして、一緒に整備促進をしていこうという言葉があったことは心強いことでございますし、観光とか産業面でも一緒にまた確認ができたこと、これから両県のマシーンを動かしながら進んでいくことになると思いますが、スタートを切れたこと自体が収穫だったと思います。

【石井知事】

私のほうからも池田家の縁もあってですね、古来つながりの深い岡山県、鳥取県の間で知事会談ができたことは大変意義深いと思っておりますし、また今お話もございましたとおり両県の連携という意味において取り組んでいくべき項目について挙げられたということと、それからこれから両県ともども地方を取り巻く地方分権だとか道州制だとかいろいろな議論があるわけですが、こういった議論をお互いに展開していく上でも共通の認識が得られたということで大変意義があったのではないかと思います。

【中央新報 太田記者】

意地悪な質問をしますけれども両県同士がどうしてこういう話し合いがこれまでなかったのか。お話をさっき伺いまして非常にスムーズに話が全て進んでいったように思います。もっと早くからこういう話があれば、もっとスムーズに話ができたんじゃないかと思いますが。

【平井知事】

私ども鳥取県側に関してはですね、今までいろいろと話し合いのチャンネルを開こうと思ったことはいろいろあったと思います。ただいろいろと両県の間で懸案事項なんかもあって進まなかったというのが率直な私たちの鳥取側の印象であります。しかし今回石井知事のほうで快諾をしていただきまして、こういうスムーズなスタートが切れたということは、私、時代の転換点を見るような気がいたします。今日は本当に万感胸に迫るものがございます。

【石井知事】

平井知事さんが当時は副知事時代にですね、片山知事のもと活躍されておったわけございまして、そのときを振り返ってみますと片山知事さんとは岡山県の出身でもあるということございまして、実は個別のテーマでは連携をしてみいました。例えばですね姫鳥線の新直轄方式、知事さんからやろうという話があったときにいいですよと、兵庫県と三者でやればいいんじゃないですかとこういう話をすぐ快諾したということもございまして、それから私が進めておりました高速大容量の岡山情報ハイウェイ、これも鳥取県さんと結びたいですねと今度は私が話しましたら、片山さんがいいですねと早速やりましょうということでいち早く連携したと、まあいろいろ個別には良かったんです。しかしこのような皆様方の前で会議を開くということになりますと、やはり人形峠のウラン残土がどうしてもやっぱりその背景にあったかと思えます。なかなかそういう気運にならなかったということで。私もこういった会談が出来ればということの前から、前々から強く願ってい

たところでございますが、平井知事さんからお誘いがあるんですね、すぐ私も快諾をさせていただきますけれども、そういう意味で両県のこれからの将来のために、よい会談ができたと思います。

【日本海新聞 荒木記者】

石井知事のほうにお願いしたいのですが、道路特定財源が一般財源化された場合にですね、当然道路整備だけではなくてですね、優先順位というのが出てくると思うのですが、鳥取県の特に東部については鳥取自動車道というのはかなり重要度が高くてですね、実際にその整備を見ていると鳥取県側は進んでいるけれども、岡山県側は遅れているという現状にあって、県民の方の意識もその重要度と違いますか違うのではないかと心配しているのですが、知事のその辺についてのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

【石井知事】

そうですね、私どもは道路整備の優先度合いという意味から特に差をつけてうんぬんということでは全くないのですが、ちょっと先ほど私ご説明申し上げましたように、用地買収等で従来より一生懸命交渉しておったんですけれどもそれがなかなかまとめにくい、難しいという諸情勢がございまして、今日までに至っているわけなんです。その間鳥取県さんの強い要請があったものですから一生懸命、我々も地元に入って用地買収の応援をしようじゃないかと私も強く指示をしておって、ようやく20年代の前半ということになっておりますけれども、そういったような事情があるということでございまして、私どものほうも東の方へ向かってですね、東西の粟倉、大原、こちらのほうからとにかく鳥取そして姫路の方に結んでいきたいという強い要請が従来よりございますので、私どもにも大変に重要な高速道路ネットワークだという位置づけは変わりません。

【中央新報 大田記者】

あの来年、今年度中に東海との航路が就航する予定があるんですけれども、さっき平井知事もおっしゃいましたけれども、これが就航した場合に岡山県としては何か韓国にそういった利用価値というような意義といったものは感じられますか？

【平井知事】

これはまだ決まったわけではなくちょうど努力をしているところでございまして韓国の、朝鮮半島の東海岸に立ち寄ってウラジオストックに行く。

【石井知事】

プサンのほうに寄りますか？

【平井知事】

プサンではなくて、ソウルに近いほうですね。

【石井知事】

プサンの北側ですか。

【平井知事】

ここに東海という町がございまして、ここからウラジオストックのほうに。ここに高速道路がありまして嶺東高速道路というのがございまして。ソウル首都圏と結ぶ。

【石井知事】

ちょっとまた詳細に調査してみたいと思います。私ども実は慶尚南道とは交流することに決まっているんでね。もうちょっとプサンのほうなんですけど。こことプサンのほうの隣

とこの夏に交流協定が結ばれる予定なんです。

【平井知事】

そうですか。

【石井知事】

ちょっとどのへんにあるか位置的にわからないので。もしもあれば非常に便利になるなど。また少し調査させてください。

【山陰中央】

平井知事にお聞きしたいのですが、なぜ今このタイミングで知事会談を呼びかけたのでしょうか？

【平井知事】

私はもっと早く山陰と山陽の間で共通して抱えている問題はあると思っていました。特に観光関係だとか産業振興を考えますとお互いに緊密に連携を結ぶことで岡山側にも利益があるし、鳥取側にも利益があることがたくさんあると思っていました。併せて非常に気になっておりましたのが自動車道が3本今ございますけれど、これは縦の軸をですね、南北の軸をきちんと通す必要があるんですが、これは両県の呼吸が合わなければ実現はしないと思っておりました。そういうことから石井知事にぜひ一度お互いの両県の共通の課題を話し合えようとお願いをしたところであります。今までいろいろと懸案になっておりました両県の間の問題も解決に向かって大きく前進した時期でもありますし、私自身は前の片山さんから替わって新しく就任させていただきましたので、一つの時代という意味では断面になりうるタイミングかなと思いました。両県がこれからも結びついていく時代ということでこのタイミングで呼びかけさせていただいていかがだろうかと思った次第です。

【山陰放送 山本記者】

両知事に質問です。暫定税率の問題ですけれども解決についてはまあ国の話と、財源の補填に関してはきちんとやってくれということですけど、今後を見た場合を考えまして暫定税率自体の存廃についてはどういうお考えでしょう。

【平井知事】

私はですね2兆6千億というこの量の問題はある程度確保した上で解決しなければならないと思います。ただ厄介なのは法案、法律でございますので、衆参両院で議決をして決まるのが本来でありましょうし、与野党それぞれに民意を背負ってますからきちんと話し合いをして、本来何が妥当な解決策かを探るべきだと思います。一般財源化の議論とこの量の議論と、質の議論と量の議論が両方並行してごっちゃになって議論されていますけれども、併せてどういう道路が必要なのか、そのためにどういう財源手当てが求められるのかこれは国として責任をもって解決策を出すべきだろうと思います。本来は与野党で協議をして地方の実情、道路整備を必要している地域が、まだまだ首都圏だとか阪神圏と違いますが、そこに則った解決策を出すべきだと思います。それで与野党で話が見つからないのであれば暫定税率を復活をするという意味で今与党がしかけようとしている話は十分うなずけるところはあるだろうと思います。

【石井知事】

私も量的な意味でいわゆる税収の確保、これを図っていただかないと結局それと地方財政

が極めて連動しているものですから、極めて影響が大きいと思うんですね。したがって税収という意味における暫定税率、これが一般財源化になるかどうかという点ももちろんこれから与野党が協議をして、結論を見出していただければと思いますけど、まずはその年度、年度ですね、税収の確保ということは何らかの形でこれはやっていただきたいと思います。この何らかの形というのは一つは与野党の協議によってそれを実現できるのが一番望ましいんですけど、それがどうしても実現できないと、協議が成立できないということになりますれば、憲法の規定に従って進めていくと、そういうことが報道等されておりまして、そういうことになるのもやむを得ない選択かもしれないとこのように思います。この時期に根本的な税制の仕組みを変えるということは、ちょっと時期的に、時間的にもいかなものかなと、こういう税制の根本的な議論というのは夏ごろから秋ごろにかけて国民的な議論を展開していく中で方向性を見出されるべきではないかと考えます。財政を預かっている立場からすれば。

【 - - - 】

先ほどから道州制の議論というお話があるんですが、道州制というのはブロック単位の話になるんですが、両県知事会議というか、今後どのような役割を果たしていくか、もしくはどう発展していくのか、そのあたりを両県知事にお伺いしたいのですが。

【平井知事】

道州制についてはこれから地方政府と中央政府との関係、役割分担の根本的な議論から入っていくこととなります。これは全国知事会で石井知事が委員長としてとりまとめをされていることもございまして、まずは基本論をしっかりとやっていくことだと思いますけれども、道州制がいずれどういう議論に進んでいくかということがございますけれども、その道州制になるにせよ、ならないにせよ、やはりこの連帯したつながった地域で協調連携していくこと、この重要性はいささかも揺るがないと思います。例えばこの三本の矢の道路がきちんとできて、さらに産業でもお互いの結びつきが深まって、お客様を呼び込むのも両県を周遊するようなルートができればなど、このことは道州制が実現したときにも一番大切な土台になっていく、民政の本当の意味での利益になっていくこととなります。それをしっかりと今の段階はやるしかないかと思います。たとえその道州制について議論が紛糾して、実現が、雲行きが怪しくなってくるということであっても、そのときも地方分権に基づく自立した地域同士が結びついてお互いWIN、WINの関係の地域を作り上げていこうと、これが基本だろうと思います。その点でもこの両県知事会議の役割が揺らぐことは無いだろうと思います。そういう意味で私はこのコミュニケーションの場をまずトップ同士でも語りながら、先ほど展開して観光とか物産とかの関係でも今やろうという話になりましたけれども、そうした動きが県庁全体にも浸透していったら、両地方政府同士の交流が深まるということが必要だと感じます。

【石井知事】

私は道州制につきましてご紹介いただきましたとおり知事会の中で特別委員会の委員長をさせてもらっています。その立場で道州制ビジョン懇の議論に参加する中でですね、この間中間報告を出すことが出来たと。これはしっかりとこれから国民的議論を展開していく、そして最終報告は2年後でございますけど、それに向かって大いに議論をしていきたいと思っています。そういった中で、やはり地域間の連携、特に広域的な地域間連携というものが

大事だというふうに思っております、そういう面においての議論をこれから導入が一応10年後ということで、この間の中間報告には概ね10年後ということになっておりますけれども、それが実現できるかどうかということは別にしてもですね、こういう連携をすることによって非常に広域的なつながりが深くなってきた、交通条件も非常に良くなってきたと、改善されてきたと、そしてお互いに産業面、観光面いろんな面で文化面でも交流することによって、これだけ大きな新しい地域間の連携において効果が生まれてくることを示すという意味においてもこの知事会議の意義というのは、大変に大きいものと思っております。

【青木企画部長】

そろそろ最後のご質問ということでよろしいですか。

【毎日新聞 小島記者】

石井知事にお伺いしたいのですが、平井知事のほうで次回岡山県のほうで会議を持ちたいというご希望が。

【平井知事】

(会議に)入るときに私の気持ちとしては是非この会議が続いたらいいなと、まあ鳥取、岡山と交互にやるイメージかなという話をしております。

【毎日新聞 小島記者】

そのことについてまた岡山でやるおつもりはあるのでしょうか。

【石井知事】

もうたいへん今日はこれだけの有意義であり実り多い成果がございましたので是非これを継続的に実施していきたいと思っておりますので、次回は岡山側のほうでですね、平井知事においでいただきますれば、ぜひ開催をさせていただきたいと思っております。早速石谷家住宅に匹敵するような、そういうすばらしい文化財をしっかりと探しまして暖かいおもてなしをしていきたいと。

【 - - - 】

頻度というのは？1年に1回とか？

【平井知事】

年に1回ぐらいは必ず。

【石井知事】

まずは年度1回ぐらいをめどに。

【平井知事】

わかりました。

【青木企画部長】

それでは記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。